

【ブギドノン地域の生計向上支援】
- 第8回現地活動報告 -

現地活動記録_参加者:久米、Ms. Wilma

2025年	活動	宿泊地
5月31日(土)	・マニラからカガヤンデオロ市へ移動	カガヤンデオロ市
6月1日(日)	・Bobby氏と活動の打合せなど	
6月2日(月)	・ORO HANDMADE INNOVATIONS INC.手芸工房視察 ・PhiIFIDA事務所でミーティング	
6月3日(火)	・カガヤンデオロ市の名所訪問:Eco Tourism Village	
6月4日(水)	・女性起業家ネットワークとの交流 バナナ繊維の商品化提案	
6月5日(木)	・仲間たちとの交流:海釣り、バーベキュー	マニラ
6月6日(金)	・カガヤンデオロ市からマニラに移動	
6月7日(土)	・活動のまとめ	帰国
6月7日(日)	・マニラから羽田へ移動	

今回はメインの活動と予定していたマライバライ市に位置する先住民高校関係者との面談ができなかった。原因は、学校が長期休暇中で校長以下関係者も学校を離れているので会えないとのこと。そこで、空いた時間で、現地で仲間の拡大や交流、カガヤンデオロ市観光などができました。



活動地域（現場）

今回の活動場所及び活動を共にした人たち

1. 主な活動場所

表紙の右図及びこの右図を参照

- ① カガヤンデオロ市: 常連の宿泊ホテルがある活動拠点
- ② ブギドノン州の州都マライバライ市

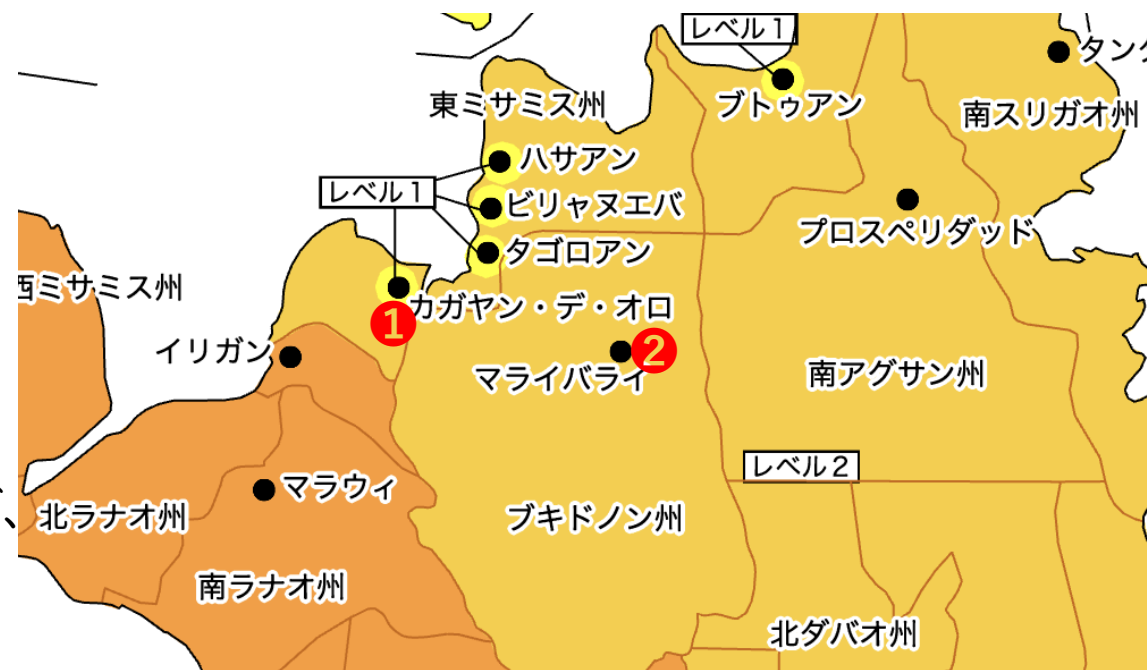
- 新たなアバカ生産拠点候補地
- フィリピン唯一の先住民族の高校がある

2. 活動を共にした主な人たち

- Ms. Wilma: 元TESDA職員で、1996年から3年間久米の同僚で、私たちのフィリピンサイドのリーダー的存在
- Flowing Grain のBobbyさん: 夫婦共に実業家で活動仲間
- PhilFIDA地方局の局長のユージンさんと技師のハーバードさんやマークさん

3. ミンダナオで新たに交流を始めた人たち

- ORO HANDMADE INNOVATIONS INC. のLolitaさん
- Bobbyさんの友人たち



出典: 外務省ホームページ
フィリピンの危険情報【危険レベル継続】

主な活動紹介 新しい仲間：ロリータさん



Oro Handmade Innovations Inc. のCEOであるロリータさん (Ms.Lolita B. Cabanlet) は、パイナップル繊維から手すきの紙とアバカ繊維、コゴン草、竹の棒、ラタンのつる、その他の植物素材を組み合わせ、環境に優しいデザイナーランプを手作りしています。また、彼女の工房から生まれる作品はヨーロッパの顧客と取引されています。

今回、ロリータさんにはバナナの繊維で草履ができないか相談しています。

写真中央上はアバカ繊維のロープ、下は草履のサンプル画像。彼女の工房には繊維をロープにする装置（写真右）があって、まずはバナナ繊維から編んだロープサンプル作成をお願いしています。

主な活動紹介② 仲間達とのミーティング



カガヤンデオロ市にある**PhilFIDA**フィリピン第10地方事務所 (**Philippine Fiber Industry Development Authority**) **PhilFIDA**を和訳すると、**フィリピン繊維産業開発庁**で、主にアバカなどの繊維生産拡大を促進する業務を担っています。広大な第10地方をわずかな人数で担当しており、公用車の燃料費にも事欠く予算で頑張っています。



写真左端がWilmaさん、2人目のマークと3人目のハーバートはアバカスペシャリストと呼ばれる農業普及員の役割で、いつもバイクでアバカ農家を巡回指導している様です。中央がユージンさんで地方事務所の所長(局長)です。この3人は私の現地活動を毎回サポートしてくれます。今回も私の描く支援活動案を共有し、お互いの役割を決めました。

主な活動紹介② 仲間たちと活動方針や実行計画協議内容



Our main challenges

We educate the community on the benefits of abaca production.

- @ We support the sustainability of the community from abaca production to fiber shipment.
- @ Make effective use of available land without destroying the natural environment.
- @ Encourage team building among the community members.
- @ Support the development of the next generation of community leaders
- @ Working with communities to improve the environment for education and health care
- @ Take on other livelihood improvement activities in addition to Abaca, as needed.

Contents

1. Inspection of potential cultivated land for mass production of abaca nurseries
2. Feasibility study on a plan to develop future abaca production leaders
3. Research to develop banana fiber as a product
4. Research on support for improving production of other agricultural products



No.1_第8回現地活動活動計画書の表紙

現地の仲間たちとの協議するためのドラフト資料です

目標を共有するためには重要です

メモを取る人が少ないので、資料を配布して書き込ませるのです
次項より、内容の和文を紹介します。

No.2_私たちの主なチャレンジ

私たちは、ミンダナオの貧しいコミュニティの開発にチャレンジします

@コミュニティの人々にアバカ生産の有効性を啓蒙します

@アバカ生産から繊維出荷までコミュニティの自立を支援します

@自然環境を破壊せず、利用可能な土地を有効に活用します

@貧しいコミュニティの人々の団結を促進します

@コミュニティの次世代リーダー育成を支援します

@コミュニティと共に教育や医療の環境向上を目指します

@必要に応じてアバカ以外の生計向上活動にも挑戦します

No.3_今回の現地活動の主な活動

1.アバカの苗木を量産する耕作地候補の視察

2.未来のアバカ生産リーダー育成計画の可能性調査

3.バナナ繊維を商品開発するための調査

4.その他農産物の生産向上支援の調査産向上

主な活動紹介② 仲間たちと活動方針や実行計画協議内容

1. Inspection of potential cultivated land for mass production of abaca nurseries

In June 2025, PASC (Mr.Kume) will conduct a site visit to Cagayan de Oro with Ms. Wilma to investigate the availability of potential land.

No.4_1. アバカの苗木を量産する耕作地候補の視察

2025年6月、PASCの久米はMs. Wilmaと共にカガヤンデオロ現地視察を行い、潜在するアバカの生産農園の有無を調査する。

2. Feasibility study on a plan to develop future abaca production leaders

Why not make Luyungan High School a center for abaca production in Bukidnon Province?

No.5_2. 未来のアバカ生産リーダー育成計画の可能性調査

Luyungan high schoolは、ミンダナオ地域のアバカ生産活動の一つの拠点にならないか？

Why Luyungan High School?

The only high school for indigenous people in the Philippines
Photo is from April 2023



The following possibilities for support will be discussed

- ① Vocational education for 11th and 12th graders since abaca plantations are adjacent to high schools
- ② Training of future leaders of Mindanao
- ③ Expectations of future abaca farmers: education from planting abaca seeds to harvesting and fiber extraction
- ④ One of the project's activity bases, 190 km from Malaybalay City, where the high school is located, to Davao City

No.6_2. 未来のアバカ生産リーダー育成計画の可能性調査

なぜ Luyungan high schoolなのか？

フィリピン唯一の先住民族のための高校

以下のような支援の可能性を協議していく

- ① 高校にアバカ農園が隣接しているので11年生や12年生の職業教育の実施
- ② ミンダナオの将来を担うリーダー育成
- ③ アバカの種植えから収穫、繊維の抽出までの教育
- ④ 高校の所在地のマライバライ市からアバカの海外貿易集積地であるダバオ市まで190kmで、プロジェクトの一つの活動拠点に適す

主な活動紹介② 仲間たちと活動方針や実行計画協議内容

The role of Luyungan High School

- Establish an Abaca Production Club within the school through voluntary student participation
- Develop a nursery bed on school land and supervise the activities of the Abaca Production Club
 - ⇒ Club members will grow seedlings to a height of 1 meter under the guidance of PhilFIDA
 - ⇒ The goal is to produce 1,000 to 1,500 seedlings per year
- Each club member will plant and manage 60 abaca plants (1,200 plants if there are 20 students)
- Annually provide 20 mature abaca plants to each club member
- ★ Members are expected to become abaca leaders in their respective regions
- If the school has the potential to build an abaca farm, plan to include fiber extraction
- Store abaca in a warehouse, ship high-quality fiber, and sell it to PASC

The Role of PhilFIDA (Philippine Fiber Industry Development Authority)

- Providing training on abaca production to members of the abaca production club at Luyungan High School
- Collaborating with PASC to develop an educational training curriculum
- Expanding abaca farmer support activities to IP villages other than Luyungan High School in collaboration with PASC in the future
- * Details of the activities will be discussed with Luyungan High School and PASC(KUME and Ms.Wilma) in June 2025 to create a plan

The role of PASC (Mr. Kume and Ms. Wilma)

- Support the abaca production activity club at Luyungan High School in collaboration with PhilFIDA
- Provide funding for abaca production activities at Luyungan High School
 - ⇒ All funding will be provided through PhilFIDA
- ⇒ For example, expenses related to PhilFIDA staff travel (fuel, meals, daily allowances, etc.)
- ⇒ For example, purchase of tools, compost, disinfectants, and other materials related to abaca production
- The remaining abaca will be purchased by PASC at 30 pesos per stalk (school revenue)
- PASC will provide the purchased abaca to nearby farms, serving as a model farm
- Facilitate the establishment of a sister school relationship between Luyungan High School and a Japanese high school

No.7_Luyungan high schoolの役割

- 学内に学生の自主的な参加でアバカ生産クラブを設立する
- 敷地内に苗床を開拓して、アバカ生産クラブの活動を監督する
 - ⇒ クラブ部員は、PhilFIDAの指導のもと苗木を1mの大きさに育てる
 - ⇒ 目標は年間1000~1500本の生産
- クラブメンバー1人60本の植樹し管理（生徒20人の場合は1200本）する
- 毎年1度、育ったアバカの20本をクラブの各メンバーに提供する
- ★メンバーは彼らの育った地域のアバカリーダーとなることが期待できる
- 学校にアバカファーム建設の潜在力があれば繊維抽出まで計画する

No.8_PhilFIDAの役割（フィリピン繊維産業開発庁第10地域支所）

- Luyungan high schoolのアバカ生産クラブメンバーへのアバカ生産の指導
- PASCと協働して教育訓練カリキュラムを編成する
- Luyungan high school 以外のIP村に、PASCと共にアバカ農家支援活動を拡大する
- *活動の詳細は2025年6月にLuyungan high school やPASCと話し合って計画案作成

No.9_PASC（久米とウイルマ）の役割

- PhilFIDAと共にLuyungan High Schoolのアバカ生産活動クラブを支援する
- Luyungan High Schoolでのアバカ生産にかかる費用を提供する
 - ⇒ 全てPhilFIDAを介した経済支援とする
 - ⇒ 例えば、PhilFIDA職員の出張にかかる費用（燃料、食費、日当など）
 - ⇒ 例えば、アバカ生産に係る道具や堆肥、消毒剤などの購入
- 残りのアバカはPASCが1本30ペソで買取（学校の収益）
- PASCは買い取ったアバカを近隣の農園に提供する=モデルファームとなる

主な活動紹介② 仲間たちと活動方針や実行計画協議内容

3. Research to develop banana fiber as a product

The Life of a Banana : Bananas are not trees, but giant plants.
Bananas that have been grown with lots of love only live for about a year, and are cut down after they have been harvested because they only bear fruit once.



No.10_バナナ繊維を商品開発するための調査

バナナは苗を植えてから約9~12か月で実をつけ、収穫できます。一度収穫したバナナの木は再び実をつけないため、地上部を切り倒します。切り倒したバナナの幹からは強い繊維が抽出可能ですが、アバカほど強くはないです。すなわちバナナの木は廃棄物ながら利用可能な資源です。このバナナ繊維を草履に編み込んで販売することで農家の収入にできないか調査します。

4. Research on support for improving production of other agricultural products



No.11_4. その他農産物の生産向上支援の調査産向上

バナナの幹と同じ様に、仲間たちによってパイナップルの葉、ジャイアントバンブーと呼ばれている大型の竹など廃棄物の資源として利用が始まっています。

また、3C (Cocoa, Cacao, Coffee) と呼ばれている果実もフィリピンが世界的マーケットへの供給地としての潜在力を秘めています。その視点で、ミンダナオの貧困農家へのサイドビジネスの可能性調査を継続していきます。

Actors and their roles: **Flowing Grains**



- > The photo shows approximately three hectares of land owned by Bobby and Marisa, who run Flowing Grain.
- > They operate a transportation business, a vocational training facility, a farm, and livestock breeding on this land.
- > They are strong supporters of PASC and partners in efforts to improve the livelihoods of indigenous peoples.

No.12

写真は、ボビーさんとマリサさんの若い夫婦が所有する会社のFlowing Grainの約3ヘクタールの土地です。

彼らは、この土地で、輸送業、職業訓練施設、農園、畜産のビジネスを展開しています。

彼らは活動の良き理解者であり、先住民族生計向上支援の仲間です。

活動紹介③ 女性起業ネットワークとの交流

ちなみに、フィリピンの中央政府以下の行政区域の英文表記は以下のとおりです。

地域: [Region](#)、州: [Province](#)、県: [District](#)、市や郡: [Municipality](#)、町や村や地区: [Barangay](#) (バランガイ) となっています。

私たちと情報交換した **Bukidnon First Women's Entrepreneurship Network** は、Region 10 (ミンダナオ北部地域)、Bukidnon Region (ブキドノン州)、第1選挙県 (1st Congressional District) の Sumilao Municipality (スミラオ市) になります。



スミラオ市の先住民族
「平和と地域運営センター」



第1選挙区の職員で、左が
ネットワークのリーダー
メンバーとの集会前に顔合
わせを兼ねて昼食会



正面に立っているのが集会
を招集したBobbyさん。
起業をキーワードに今後の
関係強化を語っています



彼女たちが抽出したアバカ纖
維や纖維で作った帽子を披
露してくれました。

主な活動紹介④ カガヤンデオロを楽しむ:その1

ガーデンズ・オブ・マラサッグ・エコ＝ツーリズム・ビレッジ

予定した活動がキャンセルとなり、Bobbyさん夫妻と初対面でもあるBobbyの同級生Patrickとともにマサラグ丘陵の、再植林された地にある観光地ガーデンズ・オブ・マラサッグでランチ。

6ヘクタールの村はプレートで名前を紹介した多種多様な植物や部族の伝統的な住宅が再現されています。何より、マカハラー湾の眺めも良く、森林の中の新鮮な空気で料理も一層美味しく感じた。

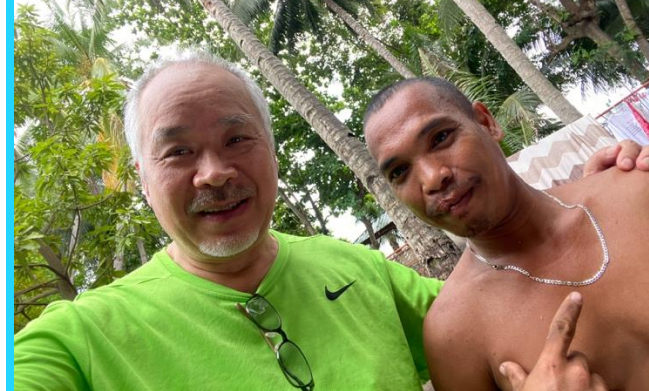


主な活動紹介④ カガヤンデオロを楽しむ:その2

以前からBobbyに頼んでいたバンカーボートでの釣りが実現

Bobbyの遠い親戚の漁師が、彼の自宅から30分ほど離れた海辺で暮らしています。

Bobby夫妻の他、今回仲間になったPatrick (趣味でユーチューバー)とAxel (竹工芸トレーナー)と共に釣りとBBQを堪能。残念ながら釣果はなし、船頭のダリルさん曰く「次回は早朝や日没前の釣果が期待できる時間での釣りをするためにも泊まりがけて来た方がいいよ。地引網も体験できるし。」とのこと。活動の継続には現地に行く楽しみも必要です。



近い将来の活動計画：苗床と植樹の拡大（赤文字は今回更新）

課題やニーズ	活動計画（案）
ミンダナオではDARATEXと呼ばれるアバカ品種が多いが、買い手はいない。 ミンダナオ島の潜在力（先住民の土地）を活かしていない。	@先住民族高校にナーサリー（苗床）を拡大 @在来種とDARATEXの区別方法を学生に指導する @在来種の株分技術を学生に指導する
	@苗床を行う場所と農家を特定する @株分の方法を訓練する →作業標準書作成＋必要道具のリスト @種から発芽させる方法を訓練する →作業標準書作成＋必要道具のリスト
	@移植するタイミングや方法を訓練する →作業標準書作成＋必要道具のリスト @肥料に関する知識や与えるタイミングを指導する @除草や枝葉の防虫、殺虫の訓練を行う →作業標準書作成＋必要道具のリスト
	@PhilFIDAとFTI（アバカ商社）の職員でカリキュラム @アバカの規格見本の開発 @アバカ繊維抽出ナイフの普及 @アバカ倉庫の建設と管理体制の構築